

授業改善のためのアンケート調査結果報告

昨年11月に実施した第7回「授業改善のためのアンケート」調査結果の概要を報告します。データ分析は、調査を実施した(株)日経リサーチによるものです。なお結果の詳細については、4月30日まで教務課、図書館、学生会本部で閲覧できますので、ご覧ください。

調査概要 (秋学期)

【調査実施時期】2003年11月5日～18日
 【調査対象】獨協大学の全学生
 【調査方法】授業出席者に対して配布、授業時間内に担当教員が回収

【調査回収サンプル数】 合計 54231サンプル*

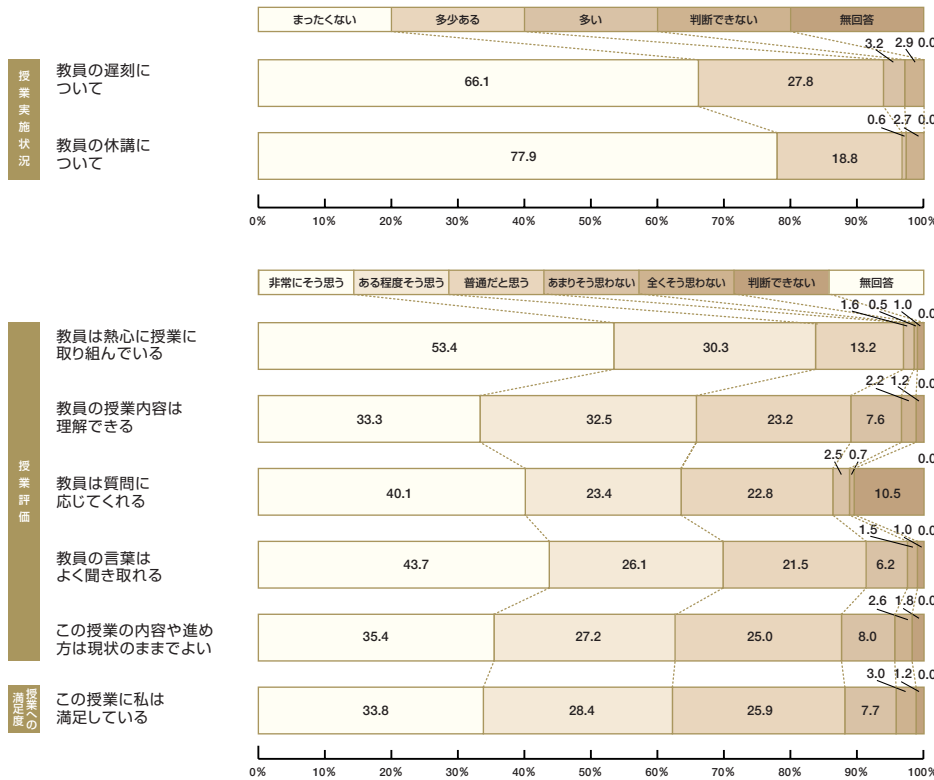
学部別	合計	学年別	合計
外国語学部	25577	1年	16572
ドイツ語学科	5247	2年	17061
英語学科	12799	3年	12931
フランス語学科	3652	4年	6236
言語文化学科	3879		
経済学部	16128		
経済学科	8334		
経営学科	7794		
法学部	10986		
法律学科	7893		
国際関係法学科	3093		

*学科、学年が未記入のものを含む。

【教員所属学科別回収率】

学部	受講者数	回答者数	回答率
外国語学部 合計	48920	31841	65.1%
共通科目	7013	4344	61.9%
ドイツ語学科	5612	3946	70.3%
英語学科	20264	14121	69.7%
フランス語学科	4440	2909	65.5%
言語文化学科	11591	6521	56.3%
経済学部 合計	32683	13782	42.2%
経済学科	17705	6659	37.6%
経営学科	14978	7123	47.6%
法学部 合計	17515	7719	44.1%
法律学科	10785	4412	40.9%
国際関係法学科	6730	3307	49.1%
全学共通カリキュラム担当	1221	889	72.8%

共通項目全体について



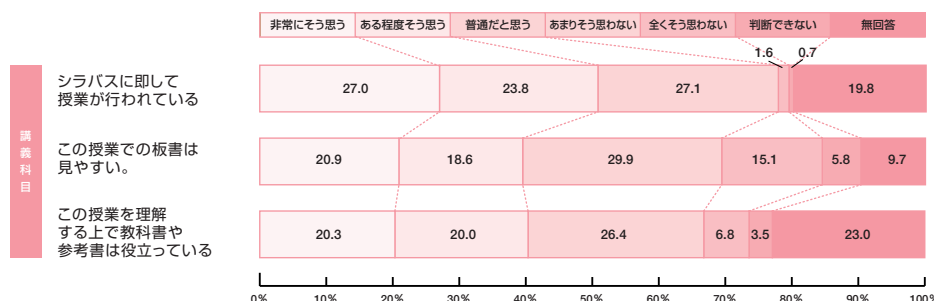
教員の授業実施状況では、「教員の遅刻について」は「まったくない」が66.1%、「教員の休講について」は「まったくない」が77.9%となった。一方、「教員の遅刻について」は「多い」が3.2%であった。

教員評価の項目を「非常にそう思う」の割合でみると、最も評価が高い項目は「教員は熱心に授業に取り組んでいる」で53.4%となっている。「そう思う」の合計スコア（「非常にそう思う」+「ある程度そう思う」）は、「教員は熱心に授業に取り組んでいる」が83.7%と8割以上の評価を得ている。次いで「教員の言葉はよく聞き取れる」（69.8%）、「教員の授業内容は理解できる」（65.8%）などが高い評価となっている。全般に評価は高めであるが、「そう思わない」の合計スコア（「あまりそう思わない」+「全くそう思わない」）がやや高いものは「この授業の内容や進め方は現状のままでよい」（10.6%）、「教員の授業内容は理解できる」（9.8%）であった。

授業への満足度では「そう思う」の合計が62.2%と、6割以上が授業に満足している。

個別の授業科目について

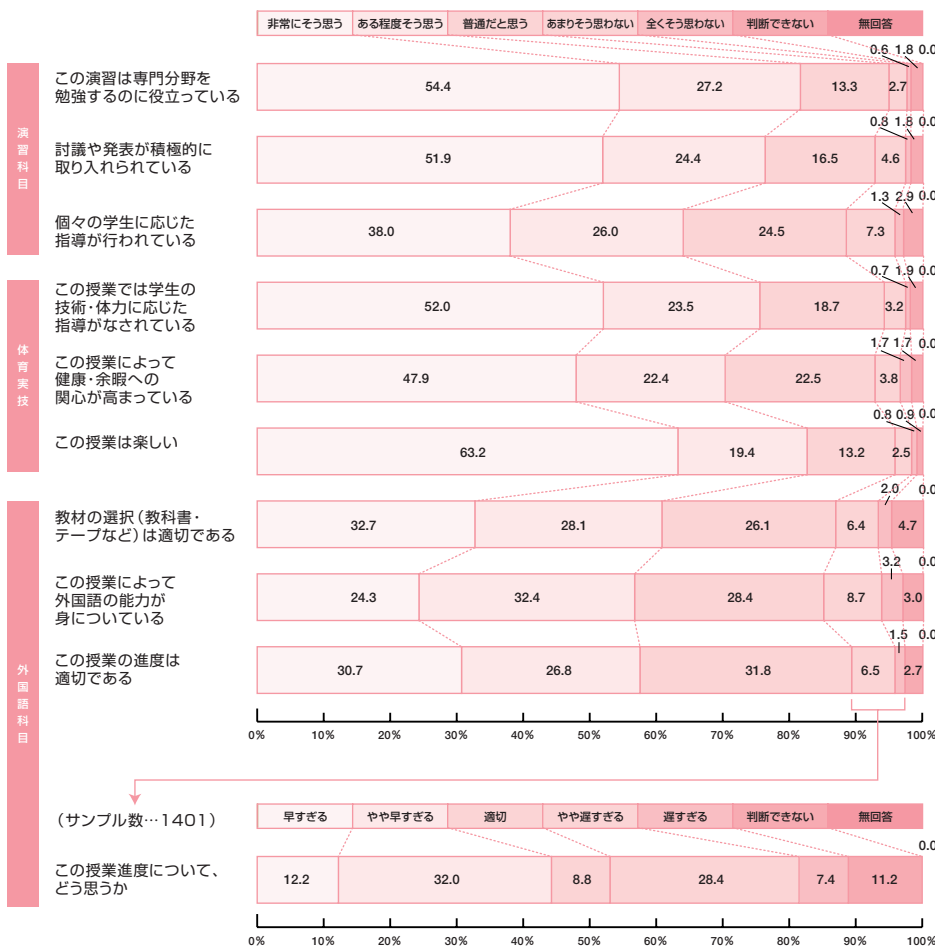
※サンプル数 講義科目…31483 演習科目…3961 体育実技…1335 外国語科目…17452



講義科目については、「シラバスに即して授業が行われている」の「そう思う」の合計が約5割と比較的高い評価となっている。

読者の声
大募集!

各コラムのリンク先、ご意見、ご感想、情報などを総合企画部までぜひお寄せください。毎月5日までに寄せられた情報は翌月の「獨協大学ニュース」に掲載します(例:4月5日までに寄せられた情報は5月号に掲載可)。総合企画部の連絡先は最終ページに。また、獨協大



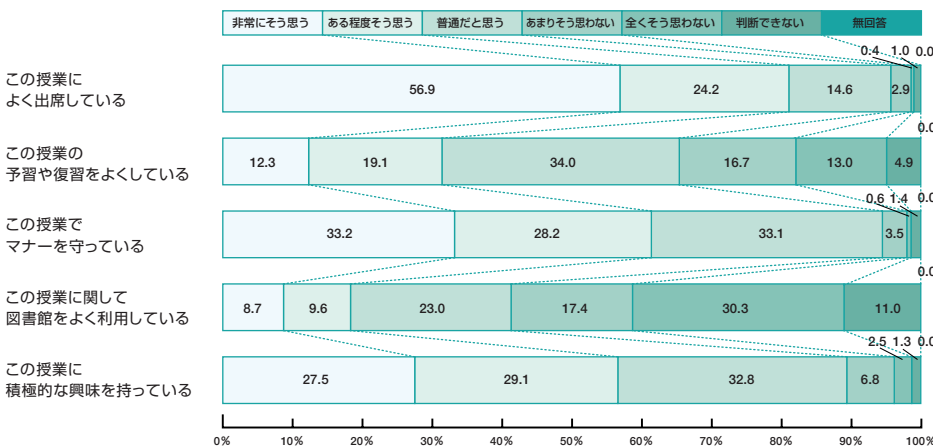
演習科目、体育実技については一般的に評価が高い傾向。

演習科目では「この演習は専門分野を勉強するのに役立っている」の評価が最も高く、「そう思う」の合計が81.6%と8割以上が満足している。また、「討議や発表が、積極的に取り入れられている」においても「そう思う」の合計は76.3%と評価は高い。

体育実技では「この授業は楽しい」について「非常にそう思う」が6割以上と高い評価を得ている。外国語科目では「使用教材」「能力の会得」「授業進度」という3つの視点で「そう思う」の合計が6割前後の評価となっている。

外国語科目について「授業の進度をどう思うか」を尋ねたところ、「早すぎる」の合計(「早すぎる」+「やや早すぎる」)が44.2%で、「遅すぎる」の合計(「やや遅すぎる」+「遅すぎる」)の35.8%をやや上回るものの顕著な差は見られず、評価は2分している。

学生の自己評価について



「この授業によく出席している」については「非常にそう思う」が56.9%と5割を超えている。「そう思う」の合計では81.1%と8割を超え、アンケート回答者の出席率の高さがうかがえる。次に評価が高いのは「この授業でマナーを守っている」であり、「そう思う」の合計が61.4%と授業態度の評価も高い。「この授業の予習や復習をよくしている」「この授業に関して図書館をよく利用している」については評価が低く、「そう思う」の合計が「予習や復習」では31.4%、「図書館の利用」では18.3%となっており、授業時間以外の勉強に臨む姿勢には弱さが見られる。「この授業に積極的な興味を持っている」について「そう思う」の合計が6割弱となっているが、「普通だと思う」との回答も3分の1を占めている。

「授業改善のためのアンケート」についての教員対象アンケート 結果報告

自己点検運営委員会では、昨年12月10日付で本学全教員(非常勤講師を含む)を対象に「学生による授業改善のためのアンケート」についての自由記述式のアンケートを無記名方式で実施した。回答数は38(全教員の約6.9%)。

38名中10名が「意欲ある学生の自由記述は授業準備の励みにもなり、また具体的な改善要求は次の授業構築の上で有意義な材料となる」と肯定的に受けとめている。ただし、その他の28名はやや否定的意見が見られ、肯定的な10名において

も、「意欲ある学生の声は参考になるが」という条件付き肯定意見、「無記名方式の実施が学生の無責任な評価を助長している」という指摘も見られた。また、「全く休講をしていないのに、『多少ある』が20%もある」といった数値集計データに対する不満も少なくなかった。

2004年度より、従来の全学部同一内容から、全学共通項目と学部学科別項目により構成されたアンケートが実施される。学部学科別アンケート項目は、各学部学科が独自に自己点検の拠点を形成し実施案を検討中である。これにより各学部学科はそれぞれ目標を設定し、授業改善から授業評価への一歩を踏み出すこととなる。詳細がまとも次第、本誌で紹介する予定。 自己点検運営委員会